

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092100021		
法人名	一般財団法人 榛名荘		
事業所名	グループホーム榛名荘		
所在地	高崎市下室田町965-1		
自己評価作成日	30年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

総合ケアセンター内の1Fにあります。建物内には、看護小規模多機能事業所・訪問看護・訪問介護・居宅介護支援事業所・高齢者住宅があります。又、半径1キロ以内には、同法人のデイサービスが2か所あります。日頃より同法人事業所とは、密に連携を取り、地域の方々や利用者様の情報交換を行なっています。又、訪問看護とは医療連携を取っており、日々のサービス提供で、医療関係に問題がある時はすぐに対応して頂いております。グループホームも開設して、10年が経過し、地域の方々や、行政、近隣の居宅介護支援事業所様とは常に連携が取れる関係が出来てきました。オレンジカフェも開設し、1年が過ぎ、毎月地域の方々、オレンジサポーターの皆様、利用者様など15名ほどの参加を頂いております。地域の認知症専門介護の拠点として、今後も多様な面で、地域の方々サポートが出来る様にまい進して行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

榛名荘病院を母体とし、「総合ケアセンター榛名荘」として、一つの建物に8つの法人が運営する複合関連施設がある。そのなかにグループホームはあり、各施設が連携し関わっており、利用者同士の行き来もある。事業所は、認知症の理解を深めよう「オレンジカフェ」を月1回開催し、地域の方々や利用者、あんしんセンターの職員の参加もあり、勉強会や季節に合わせた話題提供、物づくりを行い、交流も含め定着しつつある。また、災害対策においては、法人内職員間の連携・協力と共に、地域の方々や訓練にも参加し、避難誘導した利用者の見守りの役を担うなど、協力体制が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解する様に職員同士話し合い、理念について確認するため、解りやすい掲示を行っている。	法人理念に基づき、その人らしさを考え、生活リハビリに力を入れている。カンファレンスや朝会で唱和し、心身ともに安心して暮らせるよう確認しあっている。	法人理念を基に、グループホームとしての特性をいかした職員が分かりやすく、統一したケアの目標・指針となるものを検討されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路清掃を始め、祭り等の地域行事への参加、地域の中学生、高校生のボランティアなどの受け入れをし、交流を図っている。	地域の祭りなどの行事や買い物に出かけ、地域と触れ合う機会を持っている。事業所での行事には近隣住民が参加したり、中学・高校の生徒がボランティアとして来所したりするなど、地域との繋がりを大切に取組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェや、認知症相談窓口のパンフレット等を当財団病院窓口や、福祉会館等に置き地域の方々へPRをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告や話し合いを行い、出された意見などは議事録として記録し職員個々から目を通し参考に行っている。 現在、家族の方の出席が得られておらず、小規模多機能ホームと合同で開催されている状況である為、グループホーム単独で行う様、検討している。	2ヶ月に一度、運営推進会議が開催され、出席者はほぼ固定しており、市とあんしんセンターの職員も出席している。会議では、事業所から行事や身体拘束廃止に関する検討委員会の結果についての報告が行われ、出席者から意見を聞いている。出席者との情報交換の場となっている。	議題を設定しわかりやすく伝えるなど、出席者の意見が出しやすい状況や会議運営の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取組んでいる	支所の介護保険課の方々に、共用デイサービスや、認知症相談窓口等のPR、介護保険更新時等に、ケアサービスの取組みなどを伝え、連携を取っている。	日頃、支所に出向き、事業所の空き状況・オレンジカフェなどの行事、取組んでいる認知症相談窓口について情報提供するなど、市の職員と連携を取りながら、運営にあたっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の委員会の開催、定期の研修をおこない、日々のケアサービスに活かしている。日中、緊急止むを得ない事情がない限り常に鍵を開けておき、自由に入出入りして頂いている。	身体拘束に関して、法人での勉強会への出席、事業所内で検討委員会を開催し、理解を深めると共に、具体的な事例等について申し送り時やその都度話し合い、工夫しながら身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃さないよう、どんな小さな出来事でも職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は契約者に基づいて実施しており、解約時は状況に応じて家族と話し合い円滑に行われるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、又、苦情等の外部者への通報連絡先も玄関に掲示している。意見、苦情等があった時は、ミーティング等で、話し合い運営に反映させている。	面会時や電話で、利用者の状況を伝えるなかで、家族から意見や要望を聞くようにしている。毎月支払いのため来所される家族がいるが、納付場所が事業所と異なるため、支払い後そのまま帰宅してしまい、なかなか意見を聞く機会が取れない状況もある。	支払いの来所の機会に、職員と直接コミュニケーションがとれるような仕組みづくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見を出してもらったり、気になっている事があったら、随時意見をだしてもらい、記録し全職員で、状況、意見を把握してもらっている。	朝会やミーティングで、職員は意見や提案をするようにしている。会議に出席できないときは、予め気がついたことを、用紙に記入して提出している。行事での車不足対応について相談するなど、活発な意見が出されている。法人での管理者会議には事務長が参加し、意見・提案等を集約し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員が向上心を持って働けるように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアセンター内で研修会を定期的に持ち参加しやすい様にしている。 又、都合の付く限り、外部の研修への参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交換研修や他部署への交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人が不安に感じている事、要望などを聞くと共に、生活歴などの情報も取り入れ、その人らしい生活を支えると共に、日常生活を送るうえで必要な支援を見つけ出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関係を把握し、不安に感じていることに対し随時相談できる環境に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の両方から話を聴き、利用者にとって必要とされる支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性を活かし、「一人の人間として生きている」を頭の置き日常生活に必要な事柄をサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループ便りを毎月発行し、家族への情報発信手段としている。また家族会や通院などに関わりを持つと共に、衣類などの入れ替えなども大切な関わりの一つと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や、知り合いの面会など特に面会時間は設けておらず、随時対応している。	家族・知人の面会や以前の施設での友人の面会もあり、その際には利用者の状態等を説明し、スムーズな面会ができるようにしている。また、ドライブでの思い出の場所など日々の関わりや会話での聞き取りを参考に、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見つつ、距離感を保ちながら、よい人間関係を保てるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の支払や、顔を合わせる機会も多くある為、さりげなく近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人と家族に確認している。	日々の生活の関わりでの会話や、寄り添っているなかでの利用者一人ひとりの表情などの観察で把握し、職員間で情報交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを利用して入居前と入居後を通して確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画作成時にアセスメントをし、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが作成する介護計画をカンファレンスで話し合い、変更点があれば修正して介護計画を作成している。	独自に作成したケース記録用紙には、利用者個人個人の介護計画の目標が書かれており、職員は項目ごとにチェック・記録し、朝会やカンファレンスの話し合いとともに、モニタリングや見直しにつなげ、介護計画に沿ったケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、本人の言葉等をケース記録に記入し、申し送りノートやカンファレンスを活用しながら情報を共有し、ケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方と相談しながら、個別の要望に応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の中で安心して暮らして頂けるよう、民生委員と地域の消防所に協力してもらっている。近所の中高生のボランティアが定期的に来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重している。 又、個々の状態によって往診して対応している。	協力医が2週間に1回往診している。他のかかりつけ医を受診する場合は、家族又は職員が通院介助している。家族が通院介助する場合は、1ヶ月の状況をメモし医師に渡すことで、スムーズな診療が受けられるようにしている。法人内に訪問看護があり、週1回健康チェックを行うなど、医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当センター内の訪問看護と連携を図り、伝達事項はノートに記載し情報交換を行っている。 又、体調に変化等、見られた時は直ぐに連絡し、指示を仰いで頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換、関係作りに訪問看護も携わり、経過の伝達や情報交換を行い適切なケアの提供やサポートを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの現状を踏まえ家人と話し合いながら実践している。	最期まで看ることを前提に指針を作成して、入居時に説明し希望を把握している。状態変化等によりその時期になると、医師、看護師、事業所から家族に説明し、バックアップ体制を取り、家族が希望に沿って選択しやすいよう支援している。また、職員は看取りの勉強会を行い、実績に向けて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員には、グループホーム協会が行う研修に参加してもらったり、全職員を対象とした急変、事故発生時の対応訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震訓練は昼、夜を想定し年2回行い、地域の方にも参加して頂いている。	年2回、うち1回夜間想定を取り入れ、消防署立会いのもと、火災・地震訓練等、防災訓練を法人全体で行っている。法人内の協力体制とともに、付近住民との協力体制もあり、訓練には住民の参加があり、役割分担もできている。また、水、食糧などを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを損なわないよう、声かけ対応に注意している。	呼名は、名字に〇〇さん付けを基本とし、本人の希望や状況で臨機応変に対応している。トイレ対応時には、耳元でささやくように言葉かけするなど、本人を尊重し、利用者に合わせた言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き、その人らしく生活が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れを基本とし、その中で個々のその日の状況に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちぐはぐな服装をしている時には、さりげなく誘導し更衣を促す。朝のケア時にはホールに出て来られる前に鏡を見ていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞きながら献立を考え、手作りおやつなどを一緒に作ったり、食事の下ごしらえ、味見などをさせていただいている。個々の状態に合わせてできる事は職員と一緒に行うようにしている。	職員の勤務表作成時に、職員が担当日のメニューを作成している。メニューは日ごろの関わりで好みを把握し、彩り・大きさ・硬さなどに配慮している。また、利用者には、皮むき、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど出来ることには参加していただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間の献立を考え、定期的に体重チェックを行いながら、食事の量や水分量を十分に摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導、声掛けにて歯ブラシをして頂き、その人に合わせ介助にて、うがい義歯を洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインを観察して声掛けや誘導、着脱介護などを行っている。	各居室のトイレに誘導し、できる事は自分で行い、できないことを介助する支援に心がけている。また、個々の利用者の排泄パターン、サインを把握し、自然の生活の流れの一部として捉え、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取り、野菜類を食事に積極的に取り入れるようにしている。又、医師の指示のもと下剤の使用で対応する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は時間を決めずにゆっくりと入浴できるように支援している。又、入浴日以外でも清潔支援が必要とされる場合は、対応している。	週3回、1日のなかで時間を決めず、ゆっくり入浴できるよう支援している。脱衣所でのプライバシーの確保に努め、無理強いないよう言葉かけにも工夫している。また、かりんなど季節のものを入れたり、職員と会話するなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や夜間の睡眠の状況を勤務職員で共有して、必要時は昼寝を促したり、休憩と取っていただいたりしている。どうしても不眠状態が続く時は主治医と連携を取り安定剤の使用を検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行っており、必要な情報はカンファレンスや申し送りノートを使って職員が共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で個々の能力に応じた家事支援を行うと共に、利用者同士が会話を楽しめるように支援したり、植物の世話などを通して充実感を味わえるように支援したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるように支援している。(近所のかかりつけ医師への受信、お墓参り、お買い物など)	日々の関わりのなかから希望を聞き、毎月季節の花や木々の見学に出かけている。また、日常的には、事業所周囲の散歩に付き添い、地域の人々との会話も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方よりお小遣いをお預かりして、本人の希望に合わせて使えるようにしている。 (高額になる時には家族に確認している)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけたリ、手紙を出したり受け取ったりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じながら居心地良く過ごせるように、換気や明るさ、室温などに気を配っている。	玄関を入ると目の前に居間がつながり、椅子やソファなどが置かれ、利用者は好きな場所で過ごしている。天井は高く、室内に光が差し込み明るい。隣のカウンターからは、食事を作っている音や香りが漂っている。壁には、利用者全員の共同作業作品や季節を感じさせる個々の作品が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを二つ並列に並べて、気の合う同士が並べるように支援したり、一人になりたそうな時には、自室に適宜誘導してりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の希望等も配慮しているので、必ずしも本人の好みとなっていないが、できるだけ落ち着いたように写真やカレンダーなどを掲示するなどの工夫をしている。	居室の床の半分は、畳になっている。利用者が使いやすいタンス、椅子などが置かれ、亡き夫の旅の土産の置物や写真、手作り作品なども整理されている。大きなガラス戸を開けると、外のテラスに出られ、居心地のよい開放的な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族の意思を確認して、居室に名前を掲げたり、飾り付けを工夫したりしている。		